



スモールサンゼミ 京都通信 11 月号

2018 年 11 月 1 日
第 15 号

10 月ゼミ報告

内容報告 報告者 奥田英詔

この号の内容

1 テーマ

「今後の経済動向と中小企業経営」

2 講師

スモールサン・エグゼクティブプロ
デューサー
立教大学名誉教授
山口 義行

3 アンケートより

整理整頓を習慣化する→自分が率先する

“ゼミでの一言”

①読む力「自分の立ち位置を知る」→「今を知って、未来を予測して行動する」

②中国は大国から強国を目指している。製造 2025

③AI が大事なのではなく、
入力するデータが大事。

10 月ゼミは、御存じ山口義行先生による、マクロ経済の勉強会となりました。

・10 周年記念で講演を行った虎屋さんについて。500 年続いている秘訣とは？

→それは、時代が求めているものとどう向き合っているか？ということ

・読む力「自分の立ち位置を知る」→「今を知って、未来を予測して行動する」

・景気を見る：「景気動向指数」これを見れば明らかにわかる。

→2014 年がピークで 2016 年まで下がり続けた。2016 年より上がり始めた

→中国がそれまで抑えていた経済を活性化させ始めた。2017 年はさらに大国から強国になることを目指した。経済の最先端である半導体やロボットを自前で作れるよ

うになることを目指して動き出した。これを「製造 2025」。この流れにより、2017 年は戦後最大の設備投資好景気が生まれた。しかし、2018 年は踊り場となっている。

る。

・アニマルスピリッツ = 強気企業-弱気企業

経験上、この数字が-5 を割ると景気が落ちてきている。6 月以降マイナス続き。

→景気ピークが後退局面に入ったと考えられる。この要因も中国。工作機の注文が激減。8 月は-37%。日本は設備投資をやっている。今後設備過剰になる？可能性

→半導体景気はもう先行きダウン。中国が生産する半導体により、供給過剰になってきた。19 年を機に落ちると考えられる

・東京では新規マンションが売れ残り多くなってきた。金利が安いので値崩れしてこないが、値崩れが始めると、崩壊する可能性がある。現状は耐えている

→しかし、新規マンションは前年度△40%（例外：沖縄、名古屋）

・日米貿易協定・・・為替条項について日本は抵抗。0 金利をしている日本の金利政策にもアメリカが口をだしてくる可能性。

企業勉強：HILLTOP（基本内容はスモールサンニュース参考）

・脱下請け

・AI（あるいはシステム）が大事なのではなく、そこに入力するデータが大事。どのデータを AI に使うか？

資格ビジネスが景気循環と関連がある例

・景気が悪い時は主婦が働きに出るので、簡単な資格が売れる。景気が良いと難しい資格が売れる。

→AI にこの経緯循環のデータを入れるかが問題。経営者のセンスが問われる。

・従業員は作る仕事。経営者はつぶす仕事。HILLTOP は 2 年半で部署が変わる。



『スモールサンゼミ京都 春のゴルフコンペ』

2019 年4月 13日(土)

予告

詳細後日

(予定だけはしておいてください！！)

